

第5学年 国語科学習指導案

1組	児童	男子15名	女子16名	計31名
	指導者	教諭 大高 佐優樹		
2組	児童	男子15名	女子16名	計31名
	指導者	教諭 平賀 英和		

1 単元名 目的に応じた伝え方を考えよう

教材名 中核教材「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう ――編集して伝える」

2 単元について

(1) 児童観

児童は、これまで1学期に「サクラソウとトラマルハナバチ」の説明文教材で段落ごとの要点を考え、文章構成を押さえたうえで筆者の考えを読み取る学習を進めてきた。さらに筆者の考え(要旨)に対する自分の考えを持ち、新聞にまとめる学習を進めてきた。まとめの中心となる文を見つけることはできていたが、要旨としてまとめたり、自分の考えに具体例を示して書いたりすることはまだ不十分である。

また、「書くこと」については「言葉の研究レポート」で調べたことについて分かりやすくレポートの様式で書くことを学習してきた。「人と『もの』とのつき合い方」では、環境問題について経験や知識、調べたことをもとに、友達と考えを交流させ深めたことを事実と意見、感想と区別しながら書く活動をしてきた。自分の考えを持つということに関しては苦手と感じている児童がいて、個人差が大きい。

事前テストの結果は、次のとおりである。(音読を5日した後実施)

問	題	正答率
①	番組の制作の順番を読み取っている	87%
②	具体的な内容の読み取り(原稿書きの工夫を答える)	68%
③	筆者が一番いいことが書かれてある段落を選ぶ	87%
④	筆者が一番言いたいこと(要旨)をまとめる	50%

<①について>

番組製作の過程を選択し、記入する問題であったため、正答率が高くなったと思われる。

<②について>

放送用原稿書きの工夫が2文でしかも長文であるため、全て書けなかった子もいたと思われる。

<③について>

本文全体の要旨と報道スタッフが伝えたいことをはき違えている子がいたと思われる。

<④について>

12段落の最終文を書けたら正答とした。正確に書かない子や段落内の別の文を選ぶ子が多かった。

以上のことから、単純な読み取りはある程度できるものの要旨についての理解が課題であるといえる。

(2) 教材観

第5・6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」であり、「書くこと」の目標は、「目的に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。」である。また、書くことの指導事項のAに「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること」とある。これを受けて、本単元は目的に応じて編集することをおもな目標としている。

本単元は、「ニュース番組作りの現場から」と「工夫して発信しよう」の2つの教材文から成り立っている。「ニュース番組作りの現場から」の説明文は、時系列に沿ってニュース番組の特集がどう作られるのかが述べられている。ここで、特集を制作する役割と撮影やインタビューの手順、編集の仕方や原稿の書き方などの全体の流れと、発信者の意図や願いがあることを知ることができる。「工夫して発信しよう」では、「ニュース番組作りの現場から」での特集ができるまでの流れを受けて、実際に自分たちが発信するまでの方法が述べられている。本単元は、発信者としての思いを持ち、受け手にとって意味のある話題や情報について考え、目的に応じて必要な情報を取捨選択し編集する活動をするので、前述の指導事項に適している単元であるといえる。

なお、社会科の「暮らしを支える情報」の学習で、ニュース番組の内容を調べ、放送されるまでの順番や伝える人たちの工夫、努力について気づき、実際にニュース番組を作る活動がある。本単元の前に学習し、本単元の学習に活用できるようにさせる。また、パソコンを使ったプレゼンテーションの作り方や操作の仕方については総合的な学習の時間に学習させる。

(3) 指導観

最初に、単元のゴールとして教師が作ったニュース特集のモデルを提示する。このことにより、子どもたちが意欲を持続させ、目的を持って学習に取り組むことができると考える。中核教材の「ニュース番組作りの現場から」では、ニュース番組の特集を作るための時間的な流れや役割、取材や原稿の書き方等の仕事内容と大事なことや気をつけることを読み取らせる。時間を表す言葉と指示語の内容を確実にとらえさせ、文末表現に着目させながら、発信するときに必要になる大事なことや気をつけなければならないことを、要点として分かりやすくまとめさせたい。そして、既習を生かして文章構成をとらせ、筆者の考えを読み取らせる。自分たちが活用できることをキーワードとし、それらをつないで文章化することで要旨をとらえてさせたい。そして、要旨を具体的にとらえ直すことで、発信者の思いや願いを知り、自分たちが発信者のするときに活用できると考える。また、複数の教材文を関連させながら、常に発信することを念頭に置いて読み取れるようにしていきたい。

単元のゴールは、「チェンジ ザ 鬼小」と題してニュースの特集を作り、学習発表会で全校児童、保護者、地域に向けて発表することにする。初めに、個人で具体的に話題や内容を考えさせる。このとき、疑問を大切な出発点とし、鬼小で変えていきたいところ、もっと良くなりそうなどなどを考えさせるようにしたい。次に、「工夫して発信しようー編集して伝える」の事例を参考にし、編集の仕方を確認させたい。実際に活動する前に、放送原稿を書かせるときには、聞いている人にわかりやすい言葉を使い、一文を短くするなどの工夫を生かせるようにしたり、編集の写真の選び方に関しては、4年生の「アップとルーズで伝える」の学習を生かして、自分たちが伝えたいことに適している写真はどれなのかを考えさせたりするなど実際に活用できることを具体的にとらえさせたい。活動するグループは、同じ内容や似ている内容の子どもたち同士とする。実際に編集するときには、既習「サクラソウとトラマルハナバチ」の論の進め方などを参考にし、例えば、最初に話題や問題を提起し、それについての具体例を示し、最後に考えの中心を述べるというような展開の仕方ができるようにしていきたい。今回、伝える方法は、パソコンによるプレゼンテーションとする。使用する画像は静止画とする。動画では、機材の確保と作業時間に不都合があると思われる。また、新聞やポスターとしてまとめる方法も考えられるが、新聞については1学期の「サクラソウとトラマルハナバチ」ですでに書く経験をし、ポスターについても同様に1学期に図工で学習していて、今後も学習することが考えられる。また、プレゼンテーションでは、グループ内でいろいろな役割を分担することができ、発表するときに表情や声質など内容以外にも伝わる人が多いというよさがある。こういったことから、本単元では最も妥当な伝え方としてプレゼンテーションを選択した。プレゼンテーションでは、見出しをつけたり、グラフを挿入したりすることやインタビューの内容を分かりやすく直すことなど様々な工夫が考えられるので、子どもたちの思いや願いに合わせて活用できるように支援していきたい。

【仮説にかかわって】

手立て1 活用することを意識した単元構成の工夫

単元の言語活動としてのゴールを学習発表会でのプレゼンテーションの発表とする。単元の最初にプレゼンテーションのモデルと学習計画を提示することにより、児童の意欲を高め、持続させるようにしていきたい。また、教材文の読み取りの際に、自分たちが発信することを意識させるため、2つの教材文の関連を図りながら読み取っていききたい。

手立て2 個の学びを深める指導の工夫

時系列に沿って読み取った内容を短く分かりやすく表にまとめるようにさせる。ペア、グループでの学習を取り入れ、自分の考えの交流を図り、なかなか思いつけない児童には参考にさせていきたい。プレゼンテーションの内容については、グループで考えたり作ったりさせていく。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

・ニュースを探して伝えることに関心を持ち、伝え方や内容を工夫しようとする。

【書くこと】

- ・目的や相手を意識し、書く必要のある事柄を整理して書く。(ア)
- ・集めた材料を、目的に合わせて整理し、効果的に配列しながら書く。(イ)

【読むこと】

・テレビ放送のニュース番組の「特集」の作り方を理解し、段落ごとに整理して要旨をまとめる。(ウ)

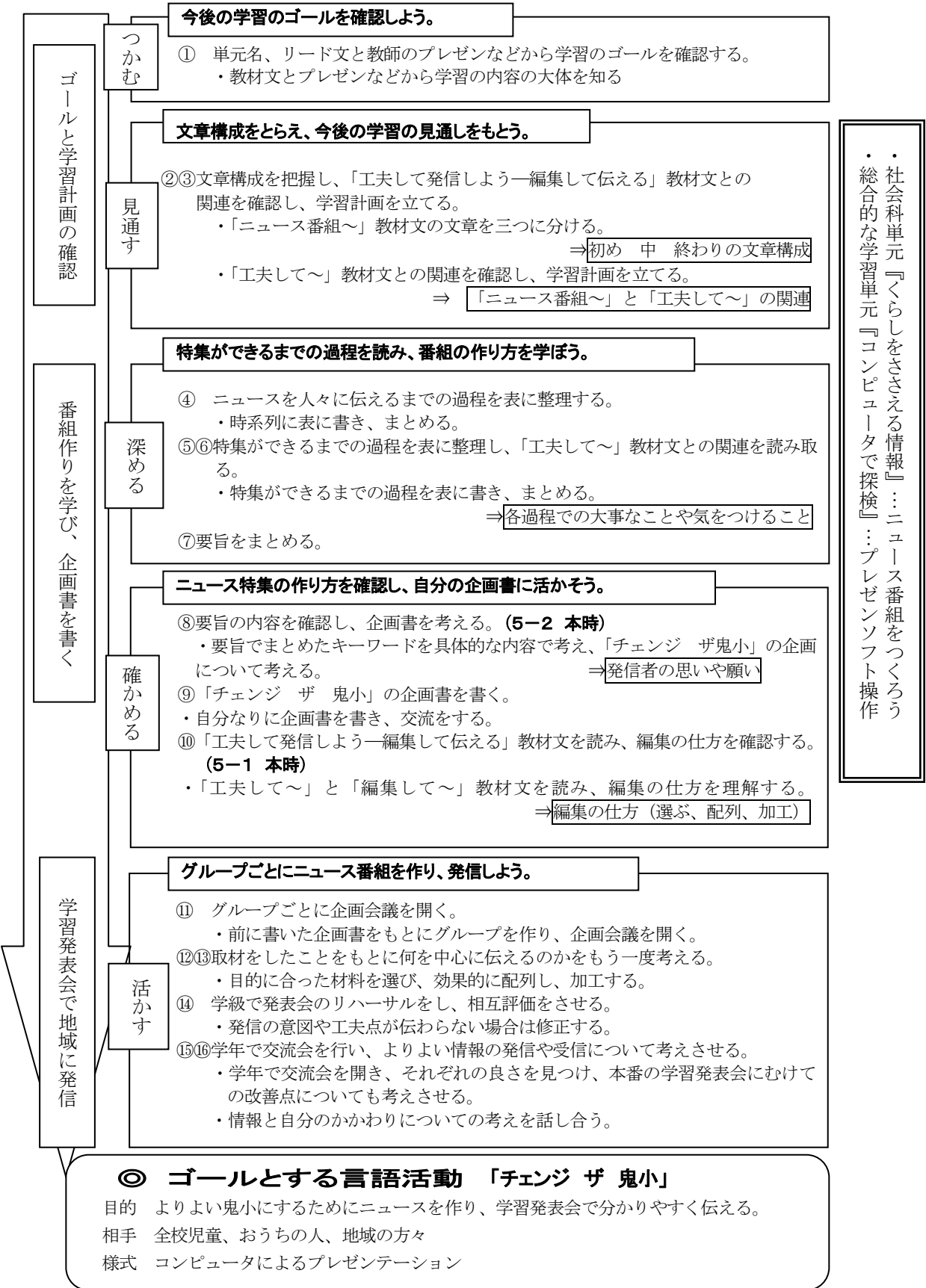
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・複合語の意味や使い方を理解する。 イー(エ)

4 単元構想図

単元名 「目的に応じた伝え方を考えよう」

目標 文章構成をつかみ、要旨をとらえて、ニュース番組がどのように作られるかを知る。
伝えたいことをどのように伝えるかをグループで協力して考え、編集し、発信する。



5 単元の指導計画と評価規準 (全16時間)

次	時	学習活動	関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項
1 つかむ	1	○単元名、リード文と教師のプレゼンから、学習のゴールを確認する。	・今後の学習の見通しをもとうとしている。		・単元全体を概観しながら読んでいる。(1)イ	
2 見通す	2 ・ 3	○文章全体の構成を把握し、「工夫して発信しよう」「編集して伝える」との関連を確認し、学習の計画を立てさせる。	・今後の単元の学習計画を考えようとしている。		・形式段落に小見出しをつけている。(1)ウ ・情報発信までの手順を読み取っている。(1)イ	・全体の内容を読み、3つに分けている。(1)(キ)
3 深める	4	○ニュースを人々に伝えるまでの過程を表に整理しながら、自分の力で読み取る。	・ニュースを人々に伝えるまでの過程を表に整理しようとしている。		・ニュースを人々に伝えるまでの段階を表に整理している。(1)ウ	・複合語の意味や使い方を理解している。(1)(エ)
	5 ・ 6 ・ 7	○「特集」とは何かを知り、この後の活動を想定しながら、大事なことや気をつけることを読み取り、要旨をまとめる。	・「特集」ができるまでの過程や要旨を考えようとしている。		・各過程で大事な点や気をつけることを読み取っている。(1)ウ ・いい報道するために、学ぶことは何かを考えて読んでいる。(1)ウ ・要旨をまとめている。(1)ウ	・キーワードを理解している。(1)(オ)
	8 ・ 9	○特集の作り方を確認し、「チェンジ ザ 鬼小」の企画について考える。 (5-2 本時) ○「チェンジ ザ 鬼小」の企画書を書かせ、話し合う。	・個人の特集の企画について考えようとしている。 ・目的意識、相手意識をもち、個人で企画書を書こうとしている。	・読み取ったことを生かして、企画書書いている。(1)ア	・要旨を具体的にとらえ直している。(1)ウ	
4 確かめる	10	○「工夫して発信しよう」を読み、編集の仕方を確認する。 (5-1 本時)	・効果的な編集の仕方を考えようとしている。		・伝えたいことの内容を考えた編集の仕方がわかっている。(1)ウ	・いろいろな文や文章の構成を考えている。(1)(キ)
5 活かす	11	○企画書をもとに、目的や話題が同じ人どうしてグループを作り、企画会議を開く。	・目的意識、相手意識をもち、グループで企画書を書こうとしている。	・自分たちの力で情報を発信したいという願いをもち、目的に沿った企画書を書いている。(1)ウ		
	12 ・ 13 ・ 14	○グループごとに取材をする。取材したことをもとに何を中心に伝えるのかをもう一度考える。 ○伝えたいことが明確に伝わるように編集する。 ○学級内でリハーサルをする。	・伝え方や内容を工夫しようとしている。	・教材文から学んだ編集や発信の方法を生かし、材料を選んだり配列を考えたり、また写真や図表との関係も考えたりして、原稿を書いている。(1)ア・オ (2)イ		・いろいろな文や文章の構成を考えている。(1)(キ)
	15 ・ 16	○情報を発信させ、学年で交流会を行う。 ○学習全体を振り返り、自己評価をする。	・単元全体の振り返りを通して情報の発信についての考えを深めている。	・グループごとに発表し合い、表現の良さに着目して助言し合っている。(1)カ		

6 本時の指導【8/16時 5年2組】

(1) 目標

特集ができるまでを確認し、「チェンジ ザ 鬼小」の企画書について考えることができる。

(2) 指導にあたって

これまで、ニュース番組の特集ができる過程について読み取り、前時には要旨をまとめてきた。段落⑫がまとめの段落で⑫の要点をつかむことで要旨と置き換えられるとした。⑫の中で活用できそうな事柄をキーワードとしておさえ、それらを時系列でつなぎ、文章化し要旨とした。

そこで、本時は要旨の内容を具体的にとらえ直すことにより、実際に自分たちが発信する際に活用できるようにさせたい。要旨として抽象化、一般化された内容を、再び具体的な事例の内容に置き換えることにより、筆者の考えを自分たちが発信する立場となったときに実際に活用できるものになると考える。具体的には、前時にまとめた要旨のキーワードをただの言葉の意味としてとらえるだけでなく、②～⑩段落の事例に沿って具体的な内容の叙述に置き換えさせ具体的にとらえ直させる。そのうえで、自分なりにゴールの言語活動である「チェンジ ザ 鬼小」の企画について考えさせたい。本時では、自分なりに考えた内容をメモする程度とし、次時に企画書として書くようにさせる。

手立て1 活用することを意識した単元計画の工夫

- ・要旨を実際に発信する際に活用できるよう、事例に沿って具体的にとらえ直すようにさせる。
- ・発信する側の思いや願いについて考えさせることにより、自分たちの今後の活動に十分な思いや願いを持つことが大切であることをしっかりとらえさせ、次の活動の企画を考えるときに生かせるようにさせたい。

手立て2 個の学びを深める指導の工夫

- ・ペア学習を取り入れ互いに交流させ、どんな言葉に置き換えたのか具体的にどこの記述を使ったのかを考えさせるようにしたい。
- ・学び合いでは、発信者側の願いを考えさせることにより、「チェンジ ザ 鬼小」の企画を考えるときに、願いを持って制作することが大切であることに気付かせたい。

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準		努力を要する児童への手立て
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	
要旨を具体的にとらえ直す (ウ)	・要旨の3つ以上のキーワードに対し②～⑩段落の言葉で書き込んでいる。	・要旨の内容を②～⑩段落の言葉を使い、2つは事例の内容に沿って書き込んでいる。(ワークシート)	対話をしながら、キーワードを別な言葉に置き換えて書き込みさせる。

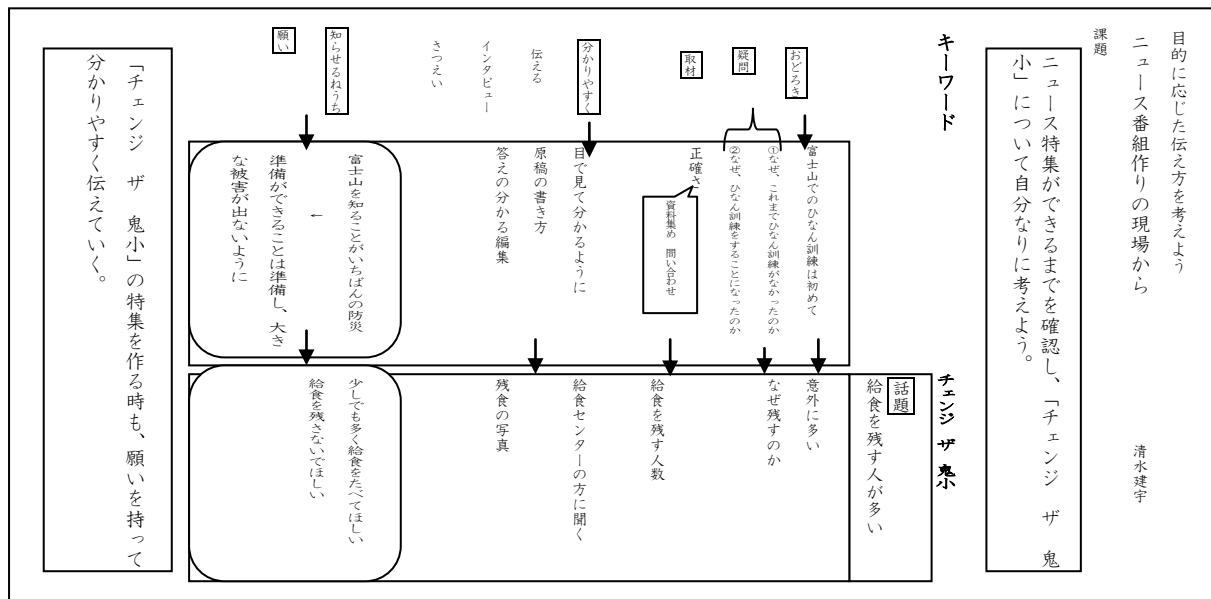
(4) 展開

	学習活動と児童の反応(・)	支援(○)と評価(□)
つかむ	1. 前時の想起をする。 ○特集ができるまでの過程を簡単に確認する。 2. 本時の課題を確認する。	○掲示物などで振り返りながら、各過程で大事な点を確認する。
5分	3. 音読する。 ○前時にまとめた要旨を音読する。	○前時に個人ごとにまとめた要旨を音読させる。
深める	4. 見通しを持つ。 ○前時に要旨をまとめたときに使ったキーワードを確認する。 ○一つのキーワードをみんなで具体的な言葉で考えてみる。 ・「おどろき」→初めてのひなん訓練	○要旨の言葉を別な言葉に置き換えることができそうだとことを確認する。 ○みんなで、「おどろき」のキーワードを具体的に考えることで、一人学びの方法をとらえさせる。
る	5. 一人学びをする。 ○要旨のキーワードを②～⑩段落の言葉	○自分たちの発信するための活動をイメージしながら、内容を確認する。

ニュースの特集ができるまでを確認し、「チェンジ ザ 鬼小」について自分なりに考えよう。

30分	<p>や、叙述から自分なりに想像したことを書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「疑問」→なぜ、ひなん訓練を行わなかったのか。なぜ、行くことにしたのか。 ・「取材」→最も大切なのは正確さ ・「分かりやすく」→目で見て分かるように撮影 →原稿の書き方の工夫 <p>6. 学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書き込んだ内容を発表する。 ○「知らせるねうち」や「願い」とはどんなことなのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・富士山はいつか噴火するかもしれないと関心を持って、もし噴火した場合でもなるべく被害を受けないように。 <p>7. 「チェンジ ザ 鬼小」の企画について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話題や内容、疑問点を考える。 ○要旨の内容で企画に使えそうなことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □キーワードを事例の内容に沿った言葉に置き換えて2つ以上書き込んでいるか。(ワークシート) ○ペア学習を取り入れ、どんなことを書き込んだのか互いに交流させたい。 ○なかなか思いつけないときには、友達の考えを参考にさせる。 <p>○事例の発信する側がどんな願いを持っていたのかを想像させたい。また、その内容がどこからわかるのかも同時に考えさせたい。</p> <p>○事例の特集を知ったおかげで、見た人にどんないいことがあるのか考えることにより、「知らせるねうち」について考えさせたい。</p> <p>○要旨の内容を具体的に読み取ったものを自分たちの特集に生かせるかどうか考えさせ、使えそうなことをワークシートにメモさせておく。その際、そこに疑問点がある場合は一緒に考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> □自分なりに話題や内容を考えようとしているか。(観察、挙手、ワークシート)
まとめる	<p>8. 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「チェンジ ザ 鬼小」の特集を作る時も、願いを持って分かりやすく伝えていく。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが発信するときにも思いや願いを持って活動しなければならないことをまとめる。
5分	<p>9. 学習を振り返り、感想を発表する。</p> <p>10. 次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時でわかったことや友だちのがんばりを発表させる。 ○本時の内容を参考にし、企画書を書くことを伝える。

(5) 板書計画



6 本時の指導【10/16時 5年1組】

(1) 目標

「工夫して発信しよう」「編集して伝える」を読み、自分の思いを相手に伝えるための適切な編集の仕方を理解することができる。

(2) 指導にあたって

本時は、「工夫して発信しよう」の大原さんのグループの進行表を読み、「編集して伝える」の内容との関連をとらえさせ、編集の仕方を確認する時間である。前時まで「ニュース番組作りの現場から」教材文と「工夫して発信しよう」教材文を関連させながら、情報発信までの手順は確認してはいるものの、編集時の詳細については具体的なイメージ化には至っていないように思われる。そこで、本時では、大原さんのグループのビデオニュースの進行表をもとに、伝えたいことを中心を考えた編集の仕方を考えさせたい。

手立て1 活用することを意識した単元計画の工夫

- ・ 既習学習との比較・・・「ニュース番組作りの現場から」・「サクラソウとトラマルハナバチ」などとの関連
- ・ ゴールとするプレゼンへの見通し・・・教師プレゼンの提示
- ・ 終末での学習のまとめ・・・プレゼン作りで必要なことの意識付け

手立て2 個の学びを深める指導の工夫

- ・ 一人学びたものをもとにしたペアでの交流、その後の全体交流
- ・ 終末での学習のまとめ・・・友だちから学んだこと

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準		努力を要する児童への手立て
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	
伝えたいことを中心を考えた編集の仕方がわかる。 (ウ)	相手意識をもち、相手に自分の思いが伝わるように、既習学習を生かして編集の仕方を考えることができる。	伝えたいことを中心を考え、具体的な編集の仕方を理解している。(ワークシート)	既習学習との比較で関連性を確認し、教師のプレゼンの提示で望ましい編集の仕方を理解させる。

(4) 展開

段階	学習活動と児童の反応(・)	支援(○)と評価(□)
つかむ 8分	1. 前時の想起をする。 ○前時に書いた個人の企画書「チェンジ ザ 鬼小」について想起させる。 2. 学習課題を確認する。 ○「編集」の意味を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> どのように「編集」して伝えればいいのか考えよう。 </div> 3. 学習段落を音読する。 ○<大原さんのグループのビデオニュース>と「編集して伝える」を音読する。	○個人の伝えたいことをもとにグループ分けをし、具体的な企画書を作っていくことを確認する。

<p>深める 27分</p>	<p>4. 見通しを持つ。 ○<大原さんのグループのビデオニュース>と「編集して伝える」を関連づけて考える。 ○大原さんが一番伝えたかったこと(発信者の意図)を最初に確認し、次に材料をどのように選び、配列し、加工しているか確認する。</p> <p>5. 一人学びをする。 ○ワークシートを配布し、伝えたいことを中心に「選ぶ」・「配列する」・「加工する」の3段階でどのように編集すればよいか考える。</p> <p>6. 学び合いをする。 ○担任が一番伝えたいことを確認する。 ○ペアで交流後、全体での交流をする。</p> <p>(1) 選ぶ ・本番だけでなく、練習中も、応援もあるから。</p> <p>(2) 配列する ・最初に問題提示文があり、最後に伝えたいことがあり、わかりやすいから。</p> <p>(3) 加工する ・文章が簡潔であり、わかりやすいから。また、円グラフの方が、伝えたいことがわかるから。</p>	<p>○大原さんたちが一番伝えたいことは「美しく花をさかせるためには、～、絶え間ない世話がある」であることを確認する。</p> <p>○「選ぶ」…球根植え当日だけでなく、多くの人が世話をしてきた過程、始まったきっかけ</p> <p>○「配列」…始め・中・終わり(願いの)構成</p> <p>○「加工」…図・表・グラフ、簡潔な文章</p> <p>○ワークシートは、3段階とも選択式とし、既習学習を想起し、根拠を明らかにして考えさせる。</p> <p>□伝えたいことを中心に考え、どのように編集したらよいか考えることができたか。(ワークシート)</p> <p>○最初に、伝えたいことを中心に確認し、ペアで交流後、全体で学び合う。その際、根拠を明らかにして話し合わせる。</p> <p>○「選ぶ」では、発信者の伝えたいことは何かを考えさせる。</p> <p>○「配列する」では、5年上「サクラソウとトラマルハナバチ」の「問題提示・説明・まとめ」の文章構成を想起させる。</p> <p>○「加工する」では、教材P36L4～の放送用原稿の書き方や社会科の円グラフの既習学習などを想起させる。</p>
<p>まとめる 10分</p>	<p>7. 学習のまとめをする。 ○学び合いで話し合った構成メモに沿ったプレゼンをプロジェクターで提示し、本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>相手に自分の思いが伝わるように、材料を選び、配列し、加工することが大切。</p> </div> <p>8. 学習を振り返る。 ○感想を発表させる。</p> <p>9. 次時の確認をする。 ○グループ毎に企画書を書くことを確認する。</p>	<p>○相手意識をもち、適切に編集すれば、発信者の意図はしっかり伝わることを確認する。</p> <p>○本時でわかったことや友だちのがんばりを発表させる。</p>

(5) 板書計画

<p>まとめ 相手に自分の思いが伝わるように、 材料を選び、配列し、加工することが大切。</p>	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">E</td> <td style="padding: 5px;">3 加工する</td> <td style="padding: 5px;">C</td> <td style="padding: 5px;">2 配列する</td> <td style="padding: 5px;">A</td> <td style="padding: 5px;">1 選ぶ</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">F</td> <td style="padding: 5px;">D</td> <td style="padding: 5px;">B</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	E	3 加工する	C	2 配列する	A	1 選ぶ	F	D	B				<p>工夫して発信しよう 課題 どのように「編集」して 伝えればいいか考えよう。</p> <p>――大原さんのグループで伝えたかったこと ・美しく花をさかせるためには、多くの人の手 と心による、絶え間ない世話がある。</p> <p>1 選ぶ：多くの人が世話をしてきた様子 始まったきっかけ ↓当日だけではない</p> <p>2 配列する：「始め・中・終わり」の構成 最後のまとめに伝えたいこと</p> <p>3 加工する：写真、図・表・グラフ 言葉は短くわかりやすい文章</p> <p>――先生が伝えたかったこと ・陸上大会に向けての選手や応援団の取り組み をふり返り、これからも「本気・根気・元氣」で がんばってほしい。</p>
E	3 加工する	C	2 配列する	A	1 選ぶ									
F	D	B												